櫛引花と緑の会

山形県鶴岡市

櫛引花と緑の会は、「美しく住みよいまちづくり」を合い言葉に、昭和５３年の同会設立時から櫛引地域全域で旧櫛引町の花である「サルビア」の植栽活動を行っている。

活動状況としては、同会会員（個人５７名、企業３４団体）で、床づくり、花植え、水かけ、除草などをこまめに行い、毎年美しい花を咲かせている。

国道１１２号（鶴岡市下山添字茶屋川原～一里塚地内）の植栽帯においては、昭和５９年から植栽を開始し、「ドライバーに心のゆとりを持って運転をしてほしい」という願いを込めて道路美化に努めている。

また、国土交通省が推進するボランティアサポートプログラムの協定団体にもなっており、道路管理者との協働により地域にふさわしい道づくりを進めている。サルビアを美しく咲かせるだけでなく、美しく住みよいまちづくりにも貢献し、今日まで継続した美化活動を行っている。

